



丙午(ひのえうま)の
年を迎えて

広報委員(北部地区医師会)
出口 宝

明けましておめでとうございます。

昨年を振り返ると、国内では各地で水害や竜巻などの自然災害に見舞われました。政治の状況も参院選での自民党の大敗と石破総理の退陣、自公分裂と自維連立と慌ただしい一年でした。世界ではイスラエル・ガザ戦争の混迷にも一筋の光が差し込みましたが、トランプ大統領には振り回された一年でした。小職にとっては日本医師会救急災害医療対策委員会において「JMATのあり方ワーキンググループ」でJMAT要綱の改定に忙しく取り組んだ一年でした。

さて、今年の干支は丙午(ひのえうま)です。陰陽五行では丙は十干の3番目で陽の火を意味します。午は十二支の7番目でこれも陽の火です。前回の丙午であった1966年には、丙午生まれの女性は「気性が激しく夫の命を縮める」などの迷信が原因なのか産み控えが生じて、前年度比で出生数が25%も減少しました。このこともあって、2024年末の第216回国会において立憲民主党の桜井周衆院議員がひのえうまに関する質問主意書を提出しました。そもそも国立社会保障・人口問題研究所が公表した「日本の将来推計人口」の令和8年の推計値には丙午の影響は織り込まれていません。政府もひのえうまに関する対策であることを明示しているものはないが、今後とも少子化対策として必要な対策を検討するとの答弁となりました。最近では話題にも上がりませんが、このような

迷信の始まりは前述した陰陽五行にあるそうです。古くから丙午の年に生まれた女性は丙の火と午の火が重なって大火になるため烈しい性格なるとの丙午信仰がありました。そして、江戸時代に実在し歌舞伎や浄瑠璃の演目にもなった「八百屋お七」による放火事件があり、お七が丙午生まれであったことでますます俗信が強まったそうです。しかし、俗信とはいえ日本が高度成長期であった1966年に出生数が減少したのは驚きですが、真実でないことを信じて行動するのはSNSに踊らされる現代社会も変わらないような気がします。では、丙午に良い謂れはないのかと調べると、強い生命力や情熱やリーダーシップを象徴しているとされていました。前々回の丙午の1906年には白洲正子が生まれています。前回の丙午であった1966年は「いざなぎ景気」の真っ只中でした。昨年誕生した高市早苗総理も年頭から「働いて、働いて」強い情熱やリーダーシップを発揮し、今回の丙午も景気が回復してエネルギッシュな年となることを期待しています。

「餅を食ひ 歯のない親の はりきり顔」(江戸川柳より)。超高齢社会に突入しましたが、これからも、そしていつの正月も自分の歯で餅を食べていたいと思います。

今年も宜しくお願い致します。





2026年 年頭所感

広報委員（中部地区医師会）
山川 研

年末になると一年間の出来事を思い返すことがあります。2025年にも沖縄県代表の甲子園優勝や憲政史上初の女性首相の誕生など、記憶に残る出来事がありました。しかしながら変化の激しい現代社会や医療界では、大きなイベントやトレンドの変化が毎年起こります。そのため、「今年も大きな変化があった」という表現は「例年通り」とも感じます。新しい年にも劇的な「変化」があるかと思うと期待と不安が交錯します。

医療現場でも電子カルテの標準化やオンライン資格確認など、DX（デジタル化）の話題が尽きません。私も「そろそろAIを使ってみよう」と思いながら、実際にはどこから手をつけていいのか迷うことが多いです。操作に習熟することにも時間がかかりそうですし、スタッフへの説明やルールづくりなど、考えることが多く、つい後回しにしてしまいます。便利になるはずの仕組みなのに、導入のための試行錯誤を考えると「これで本当に楽になるのかな」とひるんでしまう自分もいます。しかしながら、AIが文書作成や情報整理を手伝ってくれれば、その威力を実感する機会も度々あります。少しずつ慣れていけば、患者さんと向き合う時間を取り戻せるかもしれません。

どんなにデジタル化が進んでも、医療の基本は人と人との関わりです。画面の向こうにいるのは「データ」ではなく、一人の人間。そのことを忘れずに、便利さと温かさのバランスを取りながら進んでいくことが大切だと感じます。AIを“高度なツール”としてではなく、“便利で気の利くパートナー”くらいの距離感で使えるようになればいいなと思います。新しい年は効率化と温かさ、その両立を模索しながら、

迷いも含めて前向きに進む一年にしたいと思います。

2026年が、会員の先生方にとっても地域の皆さまにとっても、新しい年におこる「変化」に対して「不安よりも自信」と「停滞よりも挑戦」がほどよく調和した一年になることを祈ります。



新年のご挨拶

広報委員（浦添市医師会）
照屋 徹

会員の皆様、あけましておめでとうございます。令和八年の新春を迎え、心も新たに一言ご挨拶申し上げます。

医療界を取り巻く環境は、令和七年も依然として閉塞感に包まれた一年であったように感じます。世の中では賃金ベースアップの上昇幅が話題となり、昨年12月には沖縄県の最低賃金が71円引き上げられ、ついに1,023円となりました。しかし、その流れの中で医療・介護領域だけが取り残されている感は否めません。現場では人材確保の難しさに直面し、職員の負担増や離職の懸念など、課題は山積しています。

もっとも、「骨太の方針2025」には「賃金上昇・物価高騰への対応」や「経済成長の果実の活用」といった新たな視点が盛り込まれ、これまでの「高齢化に伴う自然増の範囲内で抑制する」という財務省主導の方針から一歩前進した印象を受けます。また、昨夏の参院選において釜谷敏先生が医療系議員としてトップ当選を果たされたことは、我々医師会の声がより確実に国政へ届く環境が整いつつあると感じております。さらに10月には、高市早苗内閣総理大臣が就任し、我が国初の女性首相が誕生しました。高市首相が掲げる積極財政方針には期待が寄せられ、少数与党という課題を抱えながらも、医

療政策の好転に向けた追い風になることを願ってやみません。

さて、私事ではございますが、広報委員として二年目を迎えました。昨年は諸先輩方におんぶに抱っこという有様で、何ひとつ戦力になれなかったことを痛感しております。私は日本臨床整形外科学会において理事として総務委員会を担当し、広報にも関わっておりますので、少しはお役に立てるのではと考えておりましたが、実際はその逆であり、会報誌づくりの奥深さと難しさを改めて学んだ一年でもありました。今年こそは、会員の皆様が手に取り、読んでいただける会報誌作りを目指して貢献できるよう頑張りたいと思います。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



令和八年新春のご挨拶

広報委員(那覇市医師会)
間仁田 守

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

本年も、地域医療の質の向上と医療・介護・行政の連携強化に微力ながら尽力してまいり所存です。皆さまにおかれましても、どうぞ変わらぬご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

さて、今年の干支は丙午（ひのえ・うま）です。丙は十干の3番目で「火」の要素を持ち、太陽や明るさ、生命のエネルギーを表すとされています。また午（うま）は、古くから人間とともに生きてきた動物で、駿足を持ち、独立心が強く、また人を助けてくれる存在でもあります。そのため丙午（ひのえ・うま）の年は、「勢いとエネルギーに満ちて、活動的になる」年になると考えられます。

新年のご挨拶の中で、私が最近始めたことを毎年紹介していますが、昨年からは懲りもせずダ

イエットに挑戦し始めました。今回（今までいろいろチャレンジ）行ったのは、脂質制限で、唐揚げ、ソーセージ、ピザなどの大好物をなるべく食べないようにし、脂質の少ない代替品へ変更しました。根気のない私でも5kgの減量に成功しました（やりリバウンド気味）ので、皆さんもいかがですか。

本年が、皆さまにとって健やかで実り多く、そして地域医療がさらにしなやかに前進する一年となりますよう、心より祈念申し上げます。

新しい年が、蹄音高く、希望へと駆け出す一年になりますように。

令和八年 元旦



2026年新年のご挨拶

広報委員(那覇市医師会)
高橋 隆

新年明けましておめでとうございます。会員の先生方におかれましては、日々の診療ならびに地域医療の推進にご尽力賜り、また昨年も御多忙の折、沖縄県医師会の諸活動にご協力頂きました事、心より御礼申し上げます。

2025年の沖縄は、例年より早い梅雨入りに短い梅雨、記録的な猛暑と、自然の変化に翻弄された一年でありました。「平年並み」という言葉に安堵できたのは、もはや過去のことかもしれない。気候変動の影響は確実に拡大しており、熱中症や感染症、災害時医療など、地域医療の現場において新たな課題に取り組む姿勢が必要であると痛感しております。また、昨年は高市早苗氏が女性として初めて内閣総理大臣に就任され、社会全体に新たな風が吹いた年でもありました。今後、政治・経済・医療、いずれの分野においても大きく方向転換される可能性があります。これらの変化を恐れることなく、柔軟に対応していければと考えております。

さて、医療界では「医師の働き方改革」が本格的に始動致しました。「医師の労働時間上限」が社会的関心を集めるようになったことは、医療の在り方そのものを見つめ直す機会であると思います。AIによる画像診断支援や電子カルテの要約など、技術革新の恩恵は大きいものの、患者の手を取り、声をかける等「いわゆる“手当て”」はいかなる時代にあっても人にしか担えない役割だと思えます。医療の根幹は、やはり“人”と“人”との繋がりでないかと思えます。沖縄県も、徐々に進行する高齢化の波に差しかかり、地域医療として大きな転換期を迎えています。病診連携、在宅医療、ICTの活用など多様な取り組みが求められる中で、沖縄の医療を支える鍵は「顔の見える連携」であると思えます。離島を含む広域において、互いの信頼関係こそが最も重要な医療基盤となると確信しております。沖縄県医師会も、現場の声を丁寧に反映させながら、持続可能な医療提供体制の確立に協力出来ることを願っております。

会員の皆様におかれましても、どうかご自愛のうえ、健やかに新しい年をお迎えください。皆様のご健勝とご発展をお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。本年も県民の健康と安心を守るため、変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。





「感即動！」
 ～「知(とも)覚(かく)
 動(うご)考(こう)！～

広報委員(南部地区医師会)
 照屋 勉

あけましておめでとうございます。2025年(令和7年)は「トランプ関税!」、「ウクライナ・パレスチナ問題!」、「ロシア・中国・北朝鮮問題!」、「初の女性総理大臣誕生!」、「熊騒動・米騒動!」などなど難題山積・一触即発・侃々諤々(かんかんがくがく)・喧々囂々(けんけんごうごう)な一年でした。2026年(令和8年)の年明けに際し、肅々淡々と諸問題の解決の糸口が見つかることを、心から切に切に願っている今日この頃です。

さて、小生の『今年のテーマ』は「感即動!」…。「感じることは、即ち、動くこと!」～感じる事ができれば、人は動きます!感じて動く!ワクワクしながらしっかり動く!「知(とも)・覚(かく)・動(うご)・考(こう)！」～感動しながら、ともかく動こう!「アフターコロナ・ウィズコロナ・ビヨンドコロナ!」～今こそ、行動・実践を続けながら、感性・感動を取り戻そう!…というテーマです!また、「下坐行(げざぎょう:不満を言わず、下に立ち任を果たす!)」という名言もあります。舞台から降りて平土間に立つとよく見えます!「Understand!」～下に立つと、よくわかるし理解することができます。「高慢」にならないように、必要以上の自己アピールは極力控えて、「感即動!下座行!」を実行・実践していきたいと真剣に考えております。今年もどうかゆたしくゆたしくお願い申し上げます。

【P.S. 最新ネタ】:『環境』を整えるには『心』を清めなさい!『心』を清めるには『環境』を整えなさい! by 空海さんの言葉! from F.B.]～これは、「つべこべ言わずにさっさと掃除せ〜!」という意味らしいです!「履物をそろえる!」、「こまめにトイレ掃除! by 鍵山秀三郎

氏]、「見えないところをきれいにすると、見えてくるところが輝いてくる！」…つべこべ言わずに、すぐすれば直ぐ済みます！「Do it now!」、「始めないと終わらない!」、「やる気より、やること! by 日野原重明先生]、「すぐやる! 必ずやる! 出来るまでやる! by 稲盛和夫氏]…。あ〜、うちあたい! うちあたい!



温故知新

広報委員
(国療沖縄公務員医師会)
久志 一朗

2026 年おめでとうございます。

昨年は、予測出来ないくらいの好ましくない事象が次から次へと起こりました。世界的な猛暑や豪雨などの自然災害（地球温暖化が原因ならば、人災かも知れません）、物価高騰も追い打ちをかけ病院経営も厳しいなど余裕のない日常が続いた印象でした。医療を取り巻く現状は、以前から指摘されてきた少子高齢化、診療報酬のマイナス改定、さらには医療者不足も重なり倒産や閉院などの言葉を目にすることが多くなりました。

社会に目を向けると通信回線の発達、インターネットの普及で人との関わりが少なくても生きていける時代となりました。しかし、私が緩和医療関連の学会や研修会などに参加して思うことは、生きていくうえで周囲との関わりが大切であるとあらためて再認識する事が多くなりました（予後も改善されるのではとの報告も散見されます）。

今年は、これまで以上に周囲（他部署、地域）とのコミュニケーションを図ることに尽きると考えています。これからの 20 年間は高齢化社会が進行するとされていますが、アドバンス・ケア・プランニング（Advance Care Planning）、独居や核家族化など患者へのサポート体制が十

分でない状況もあり、病院は医療だけでなく社会的フレイルへの対応を担うことも通常業務になっています。繊細な内容であるだけに時間も要し役場、福祉関連、訪問診療・看護などと相互協力しながらより良い生活の仕方を検討していかなければなりません。

温故知新、「子曰く、故きを温ねて新しきを知る、以って師と為るべし」。昔の教えを学びながら、現代に合った方法を模索する。閉塞感のある現代に劇的な特効薬は思いつきませんが、皆で何か良いアイデアを考え探しながら楽しく日々を過ごしたいものです。

今年の干支は丙午、検索すると火の力が重なるとされ「強さや激しさ、情熱」を象徴するとありました。活気が出て景気回復になれば良いのですが、火の車にならないことを祈るばかりです。



新病院へ移転して

広報委員（琉球大学医師会）
西江 昭弘

皆様、明けましておめでとうございます。琉球大学 放射線診断治療学講座の西江です。新年のご挨拶ということで、私自身昨年を振り返ってみました。ビッグイベントは何と言っても西普天間の新病院への移転でした。電光石火のごとく一年が経過しましたが、今後同様な経験をする機会はないと思っており、当時のことは今でも記憶に新しいです。放射線診療では、①移設あるいは新規導入した放射線機器の正常稼働、②画像診断および放射線治療計画に係る新システムの動作確認、③診療手順の円滑化などを中心として入念に準備を行いました。そんな中、TV でも放送された 1/4 の入院患者の移送に際して、新病院で初めて（緊急）CT が撮影されることになりました。当時の読影室には

放射線科医が5名ほど出勤していましたが、全員で読影システムに関する画像とレポートの紐付き、レイアウトの不備、必要な臨床情報の表示などを、緊張の面持ちで確認していき、トラブルなく診療を始められることへ安堵したことをよく憶えています。既に落ち着いている現在ですが、新しい機器や設備を最大限に活用して充実した診療、研究、教育を進めていきたいと考えています。

私達が利用する医局（研究棟）も新しくなり、心機一転、やる気も倍増しています。新病院の医局は10Fにあり、旧病院の1Fからはかなり高くなりました。開けたサッシがいきなり閉まらない細かなトラブルはありましたが、教授室から見える景色は非常に素晴らしく、空気の入れ替えも可能となり気持ちがいいです。移転に際してテーブル、机や椅子はほぼ新調され、会議室のスペースも十分に確保されていますので、臨床実習の学生からは評判の医局となっています。一つだけ、これは移転して1週間後にふと気が付いたのですが、自室の出口のドアに誘導灯、いわゆる“緑の人”（ピクトグラム）が描かれた電灯を発見しました。ご存知のように非常時に安全かつスムーズな避難を促すための道標です。初めは設計ミスではないかと疑いましたが、誘導灯の設置場所の一つに避難口（避難階段など）に通じる廊下や通路への出入口があり、つまりは誘導灯を追いかけることで脱出できる、そういう意図があることがわかりました。大講堂やホールではよく見かけますが、6畳ほどのスペース内にも設置されていることで少し笑ってしまいました。

最後に、昨年4月から病院経営や治験などの臨床研究に関する役割を拝命しています。心労の多い立場ではありますが、この2つが現在のエフォートの多くを占めており、少しやりがいみたいな気持ちも芽生えてきました。年度末には気持ちが変わっている可能性もありますが、今年もご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



新春挨拶

対内広報担当理事
天願 俊穂

沖縄県医師会の会員の皆様、あけましておめでとうございます。昨年は皆様にとってどのような一年でしたでしょうか。

私は4月に院長となり、慣れない業務をこなすだけで一生懸命でした。そのような時に6月から医師会の理事となりましたので、さらに充実した年となりました。医師会の理事会は月一回とと思っていましたが就任してから毎週ということがわかり驚きましたができるだけ毎週医師会館に行くようにしています。また、院長さらに医師会の理事になったことで県内外の様々な医療関係者や行政の方とお会いしてお話を伺う機会も増えました。今までの私は単なる医者としての視点しかありませんでしたが、同じことでも様々な視点で考えなければならぬと感じることが増え、とても勉強になっています。管理職になってから様々な情報が入るようになり、それを当院職員に伝えることが増えているので、情報の見方や分析、それを伝える際いろいろ役立っている気がします。

さらに医師会理事になって担当させていただいているのが広報委員です。役不足の感は否めませんが医師会の担当の理事、編集委員の先生方、事務職の方々のおかげでどうにかこなすことができている気がします。また、医療安全の担当もさせていただいていますが、医療機関に寄り添った対応をすべく資料を読み込み真摯に取り組んでいます。

昨年も様々なことがありました。ほぼ毎朝、テレビではロサンゼルス・ドジャースの大谷翔平選手が取り上げられましたので、日本のプロ野球以上にアメリカの大リーグ（と言ってもほぼドジャース）に詳しくなりました。また、日本に初の女性総理大臣が誕生しました。ノーベ

ル賞も日本人の受賞がありました。関西万博も無事終了しました（私も一度行きましたが、パビリオンの予約が取れなかったため、暑い中並んで、パビリオンはコモンズ館二つ、入れそうなところで並んでシンガポール館？、あとポーランド館で食事をし、夜はドローンショーを見ましたがクタクタでした）。年初めですのであえて暗い話題は書きません（本当はそちらの方がたくさんあり重要ですが）。

今年は午年、スピードや力強さ、更なる前進を象徴しています。私も今年以上に飛躍と成長を目指して一層精進しようと思っています。

令和八年が会員の皆様とそのご家族、スタッフの方々のご健康とご健勝、さらに沖縄県の医療が少しでもいい方向に向かうことを祈念してご挨拶といたします。



2026 年新年挨拶

対外広報担当理事
稲富 仁

先生方、新年あけましておめでとうございます！令和八年の幕開けです。年末年始も、きっと地域医療の現場で奔走されていた先生方も多いことと思います。本当に頭が下がります。旧年中、様々なタフな課題に立ち向かい続けてくださった全ての先生方に、改めて心からの「いっぺーにふえーでーびる！」を伝えたいと思います。

現場の課題、今年こそ本気で動かしします！今年は私たちにとって正念場の年です。現場の先生方が肌で感じている課題を、私たち執行部が「なんくるないさー」ではなく、「絶対に解決する！」という強い意志で取り組んでいきます。

働き方改革はもう待ったなし「2024年4月からの猶予期間終了」は、もう他人事ではありません。現場の疲弊をこれ以上放置するわけに

はいきません。労働環境の改善と医療の質維持、この両立に知恵と汗を絞り出します！

高齢化は止まりません。病院と診療所そして介護施設が、もっとスムーズに情報共有し、支え合える「沖縄型地域包括ケア」の形を、先生方と一緒に築き上げます。

沖縄の医療は「離島・へき地」なくして語れません。若手医師が安心して離島に行ける、サポート体制を構築していきます。

昨年、高市早苗総裁が日本のトップに立たれました。経済政策だけでなく、「現場に即座に手を差し伸べる」という姿勢を示されているのは、私たちにとって大きなチャンスです。「病院・介護施設への即時支援」というメッセージは、燃料高や物価高に苦しむ私たちの足元の経営を理解してくれている証拠です。医師会は、この勢いを逃しません。総裁のリーダーシップに対し、抽象論ではなく、沖縄の地域医療が本当に必要としている「具体的な予算」と「法制度の改善」を、熱く、粘り強く提言していきます！

「イメージ刷新」は待ったなし！正直に言いましょ。今の医師会は、国民から「何を考えているかわからない」「既得権益の塊だ」という誤解や批判を受けやすい状況にあります。これでは、先生方が頑張っている「本当の姿」が伝わりません！

広報担当理事として、今年も広報戦略を大転換します！SNSで「医師の顔」を見せる！堅苦しい文書はもうやめます。XやYouTubeを使い、笑顔の先生方が地域医療に取り組む姿、地道な公衆衛生活動の舞台裏をどんどん発信します！「なぜ医師会が必要か」を語り尽くす！政策提言も、小難しい言葉ではなく、「先生方の働きやすさと、県民の命を守るため」というシンプルなメッセージでわかりやすく伝えます。執行部だけでなく、若手の先生方、SNSが得意な先生方、ぜひ広報チームに力を貸してください！多様な視点から、医師会の「温かさ」と「真面目さ」を伝えましょ。

結いの精神で、ともに最高の一年に！県内の全ての先生方が、互いをリスペクトし、同じ目

標に向かって力を合わせる。それが、私たち沖縄県医師会の強さです。今年も、現場の先生方からの率直なご意見を、どんどん医師会にぶつけてください！

この一年が、私たち医師会にとって、そして先生方一人ひとりにとって、最高にパワフルで実り多き一年になりますよう、心からご祈念申し上げます。今年もどうぞよろしく願いいたします！

令和八年 元旦 稲富 仁

PS：随分と変なキャラになっておりますが、なんとなく考えていることをAIでまとめてもらっております。



お知らせ

日本医師会医師賠償責任保険 医療通訳サービス

医療通訳サービスの概要	
<p>契約形式：日本医師会医師賠償責任保険 基本契約への医療通訳サービスの付帯 利用対象者：開設者・管理者が日本医師会 A1 会員である医療機関の医師・職員 医療通訳の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電話医療通訳：A1 会員一人あたり年間 20 回まで無料、19 言語、毎日 8：30～24：00 ※無料利用回数を超過した場合、追加費用は時間精算となり、5 分毎 1,500 円(税抜)を利用した A1 会員の先生方にご負担いただきます。 ※なお「ウクライナから避難された患者やその親族」における医療通訳サービスにつきましては、対象言語に関わらず、年間 20 回の回数制限から除外して対応いたします。 ・ 機械翻訳：回数無制限、18 言語、毎日 24 時間(無料) <p>開始時期：令和 2 年 4 月 1 日(改訂日：令和 4 年 4 月 6 日)</p>	
電話医療通訳	機械翻訳
<p>対応言語：19 言語 (英語・中国語・韓国語・ポルトガル語・スペイン語・ベトナム語・タイ語・ロシア語・タガログ語・フランス語・ヒンディー語・モンゴル語・ネパール語・インドネシア語・ペルシャ語・ミャンマー語・広東語・アラビア語・ウクライナ語) 対応時間：毎日 8：30～24：00 ※ IC、ムンテラにも対応 ※ウクライナから避難された患者やその親族における電話医療通訳については対象言語に関わらず、年間 20 回の回数制限を除外して対応</p>	<p>対応言語：18 言語 (英語・中国語・韓国語・ポルトガル語・スペイン語・ベトナム語・タイ語・ロシア語・タガログ語・フランス語・ヒンディー語・モンゴル語・ネパール語・インドネシア語・ペルシャ語・ミャンマー語・広東語・アラビア語) 対応時間：毎日 24 時間 ※ウクライナ語は対象外</p>

スムーズなサービス利用のために、事前登録をお願いします。

医療通訳サービスの提供に当たっては、電話医療通訳を利用する電話番号等事前の登録が必要となります。
 ※利用登録がない場合であっても会員確認が出来た場合には、電話医療通訳を利用することが出来ますが、別途利用登録が必要となります。

サービス提供: メディフォン株式会社

GOOD DESIGN AWARD 2020

ホームページ：
<https://mediphone.jp/>

医療通訳サービス
 申し込みフォーム

<https://mediphone.jp/forms/jma.html>